

兵庫県のハムシ(2)

(兵庫県甲虫相資料・337)

高橋 寿郎

Subfamily Clytrinae ナガツツハムシ亜科

Genus *Clytra* Laicherting

34. *Clytra arida* Weise, 1889

ヨツボシナガツツハムシ

本種が日本で初めて記録されたのは、Baly (1873) によって *Clythra laeviuscula* Ratzeberg なる学名で “Hab. Hiogo. oak” として発表したものである (Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan, with description of the species new to science. Trans. ent. Soc. London, 1873-Part I :80). すなわち、神戸産で日本初記録されたハムシである。長い間上記の学名で扱われてきたが、木元 (1983) は、アムール原産でシベリア、モンゴル、中国北部、朝鮮半島、日本 (本州、四国、九州) に分布しており、ヨーロッパにはいない *Clytra aride* Weise なる学名をあてるべきであるとした (Entom. Rev. Japan, Vol.38, No.1, p.18). 現在では、♂の交尾器の形態などからして、この学名が用いられている。

分布は上記のとおりで、ほとんどの図鑑に図説されているハムシである。

兵庫県下でも分布は広く、特に六甲山系付近で多く見ることができる。食草はカンバ、ブナ、ヤナギの類とあるが、六甲山系ではハギから比較的多く得られる。産地：猪名川町杉生新田 [仲田, 1979, 1982]。芦屋市城山。芦屋川上流 [西, 1989]。Hiogo [Baly, 1873; Heyden, 1879]。神戸市御影 [関, 1933]。六甲山 (1♀, 3-VII-1950)。北区唐櫃 [岩田, 1978]。北区逢山峡 (4♂2♀, 2-VII-1992 etc.)。北区淡河町芦谷溪谷 (2♂, 11-VI-1982)。青垣町栗鹿峯 [山本, 1953, 1958]。豊岡市大磯 [高橋, 1975]。関宮町氷ノ山 [高橋, 1975]。温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972]

Genus *Coptocephale* Chevrolat

35. *Coptocephala orientalis* Baly, 1873

ヨツボシアカツツハムシ

Baly (1873) により、Hiogo (神戸) を原産地として、上記の学名で新種記載された種である。

分布は、本州、四国、九州、朝鮮半島、中国、モン

ゴルとなっている。

兵庫県下では原記載の神戸 (複数採集されていると思われる。記載文に♂♀の違いが記されている) のほか、和田義人博士が西宮市武庫川畔で採集した (5 exs., 7-VIII-1957) 記録 (木元, 1964) と、筆者が神戸市鳥原貯水池畔で採集した 1 頭 (1-IX-1942) があるだけで、他に全く記録がない。分布状況がよくわからないが、8~9月頃が成虫の見られる時期と思われ、調査が不十分な種のように思われる。食草は、カワラヨモギが知られている。

産地：Hiogo [Baly, 1873]。西宮市武庫川 [木元, 1964]。神戸市兵庫区鳥原 (1 ex., 1-IX-1942)。

Genus *Physomargdina* Medvedev

36. *Physomargdina nigrifrons* (Hope, 1842)

クロオビツツハムシ

Baly (1873) により、“Nagasaki” 産で *Clythra japonica* として記載された種である。湯浅啓温博士 (1950) は、*Cyanirius japonica* として図説。九州ではやや普通種で、7~8月頃に多いとされている。1961年、木元新作博士はタイプ標本を検した結果、*Clythra japonica* Baly, *Coptocephala kiotoensis* Pic, *Gynadrophthalma pallens* Baly はすべて、*Smargdina nigrifrons* (Hope) のシノニムであるとした。

Kimoto・Gressitt (1981) は、Medvedev (1971) が *Clythra nigrifrons* Hope をタイプとして創設した新属 *Physomargdina* に本種は含まれることを示した。したがって、現在は上記学名が使用されている (Hope の記載した *Clythra nigrifrons* Hope は中国産で、1842年の新種記載である)。

分布は、本州、四国、九州、対馬、五島、平戸島、慶良間諸島、石垣島、朝鮮半島、中国、台湾、インドシナで、広い地域に産する。

兵庫県下の分布については、筆者が何回か報告している (1981, 1988, 1991, 1992, 1993, 1995)。

1902年に名和靖が兵庫県 (地名不詳) で採集したという記録があり、これが県下からの初めての記録にな

るかと思う。現在わかっている記録からすれば、県南部の海岸線沿いの地域にはわりと広く分布しているようである(現在一番北の地点は、神崎郡神崎町笠形山)。恐らく県中央部あたりまで分布しているように思われる。6月下旬から8月上旬に成虫が見られるハムシのようである。

産地：神戸市須磨区多井畑 (1 ex., 26-VII-1990)、西区寺谷 (1 ex., 29-VII-1992)、西区前開 (1 ex., 4-VIII-1993)、北区藍那 (3 exs., 15-VII-1993)。兵庫県 [17-VIII-1908, 名和靖, 1935]。夢前町我孫子 (1 ex., 1-VIII-1980)。神崎町笠形山 [真野, 1992]。龍野市神岡町 (2 exs., 21-VII-1988)。相生市三濃山 (7 exs., 20-VII-1974)。

Genus *Smaragdina* Chevrolat

37. *Smaragdina aurita nigrocyanae* (Motschulsky, 1866) キボシルリハムシ

前胸背板は中央部が黒色、側方部が黄褐色、上翅・小楯板・頭部・体腹部は一般に黒青色～黒色。触角は黒褐色、基部数節は赤褐色、肢は黄褐色。

本種はヨーロッパ原産の *Smaragdina aurita* (Linnaeus, 1766) の学名で知られていたが、滝沢春雄博士 (1990) は日本産の本種はヨーロッパ産のものと♂交尾器の形状が相違するとして日本産を亜種に扱われた (Akitsu (n.s.), No.114:1-2, 1a,b.)。

Subsp. *nigrocyanae* (Motschulsky, 1866) という亜種名は、Motschulsky が日本から記載した *Gymandrophthalma nigrocyanae* Motschulsky, 1866 によっている。この種は従来、*Smaragdina aurita* (Linnaeus) のシノニムとされたものである。したがって、日本産亜種の分布は、北海道、本州、四国、九州となる。

兵庫県下では分布も広く、わりと多く見られる。成虫は6月に現れる。卵は糞で包まれ、幼虫は糞ケースに入って成長して越冬する。

食草はカンバ類、ヤナギ類、ハギなど。

産地：猪名川町上阿古谷 [仲田, 1978, 1982]。宝塚市玉瀬 [水野, 1993]。西宮市船坂 (1 ex., 28-V-1987)。神戸市中央区二十渉 (1 ex., 26-VI-1955)、兵庫区鳥原 (1 ex., 18-VI-1938, etc.)、北区藍那 (3 exs., 21-V-1993, etc.)、北区山の街 (1 ex., 26-VI-1941, etc.)、北区逢山峡 (1 ex., 2-VII-1982)、北区八田町屏風 (1 ex., 4-VI-1993)。三木市細川中 (1 ex., 30-V-1985)。吉川町 (1 ex., 6-VI-1985)。社町三草 (1 ex., 17-VI-1987, etc.)。水上郡山本 [山本, 1953, 1958]。加美町三谷 (1 ex., 9-VI-1975)。家島町家島 [上田, 1981]。新宮町福原 (1 ex., 10-VI-1992)。相生市三濃山 (1 ex., 1-VI-1974)。関宮

町氷ノ山 (7 exs., 27-VII-1956, etc.)。浜坂町城山 [磯野, 1985]、温泉町扇ノ山 [辻・岸田, 1972; 高橋, 1975; 上田, 1996]。

38. *Smaragdina nipponensis* (Chûjô, 1935)

キイロナガツツハムシ

体背面・頭部は全体黄褐色、やや光沢があり、体腹面と肢の色彩は変異がある。

本種は中條道夫博士 (1951) が、*Gynandrophthalma nipponensis* Chûjô として記載した種 (Trans. Shikoku Ent. Soc., 2(3), p.33, fig.1) で、そのcotypeの1つにMt. Mayasan (altitude about 600m), Hyogo-ken, Honshu, 1♂, 19-V-1949, S. Iwao leg.が含まれている。

Gressitt・Kimoto (1961) によって *Smaragdina* 属の種とされた (Pac. Ins. Mon. 1A:99)。Baly (1873) が Kawachi 産で *Gynandrophthalma chrysomeloides* とした種 (Trans. ent. Soc. London:81)、および Chûjô 博士 (1935) が石垣島から *Cyairis fuscitarsus* として記録した種 (Nat. Hist. Soc. Formosa, Trans. 25:71) も本種のことである。

分布は広く、日本以外では中国、台湾にも分布している。

兵庫県下にも広く産し、神戸市内では戦前から採集しており、個体は大変多い。

食草はエノキ、ミズキ、イヌシデ、クリ、クヌギ、コナラなどが知られており、神戸市内ではコナラから多く得られる。

産地：洲本市先山 [大野, 1969]。三原町成相峠 [大野, 1969]。猪名川町民田、上阿古谷、木間生 [仲田, 1978, 1982]。川西市笹部 [仲田, 1970, 1978, 1982]。宝塚市売布が丘 [水野, 1993]。神戸市六甲山 (1 ex., 5-VI-1943)、摩耶山 [中條, 1951]、保久良山 (1 ex., 1-V-1975, etc.)、中央区布引 (1 ex., 17-V-1959)、中央区二十渉 (1 ex., 1-V-1975, etc.)、兵庫区鳥原 (2 exs., 16-V-1971, etc.)、北区山の街 (2 exs., 19-V-1959, etc.)、北区藍那 (1 ex., 28-IV-1993, etc.)、北区丹生山 (3 exs., 5-V-1956)、須磨区多井畑 (10 exs., 23-V-1970)、西区伊川谷 (1 ex., 13-V-1988, etc.)。東条町森 (1 ex., 18-V-1988)。加美町白山 (2 exs., 3-V-1973)、加美町三谷 (1 ex., 8-VI-1975)。龍野市神岡町 (3 exs., 19-V-1988, etc.)。新宮町福原 (1 ex., 10-VI-1992, etc.)、和田山町宝山 (1 ex., 16-VI-1994)。豊岡市妙楽寺 [高橋, 1975]。日高町奈佐路 (1 ex., 22-V-1986)、日高町上郷 [上田, 1996]。浜坂町 [磯野, 1980]。

39. *Smaragdina semiaurantiaca* (Fairmaire, 1888)

ムナキルリハムシ

体は黒色で青藍色を帯びた光沢があり、前胸背板・触角・口器・肢は赤褐色の美しい種である。

本種ははじめヨーロッパからシベリアにまたがって分布する *Gynandrophthalma cyanea* (Fabricius, 1916) と考えられていたが、A. Fleischer (1916) が日本のものはそれと別種であるとして播磨産の標本で *Gynandrophthalma japonica* Fleischer として新種記載した (Wien. Ent. Ztg., 35, p.223)。

その後、Achard (1921) は上記 *japonica* に対して、*Gynandrophthalma garretai* Achard を与えた (Bull. Soc. Ent. France, p.61)。

本元新作博士の1964年の論文では、*G. garretai* (Achard) となっている。さらに同博士は、1966年の論文で *Smaragdina semiaurantiaca* (Fairmaire, 1888) (Pekin 原産) に扱うべきであるとし、現在もこの学名が用いられている。食草はヤナギ・カンバ類が知られている。

分布は、日本以外に朝鮮半島、中国となっている。兵庫県下の分布はわりと広く、場所によっては多数の個体に遭遇する。神戸市道場や多可郡鳥羽で、道端のヤナギに非常に多くいるのを見たことがある。

産地：洲本市先山 [大野, 1963]。川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]。宝塚市上佐曾利 [水野, 1993]。神戸市北区道場 (8 exs., 5-V-1958)。Harima [Fleischer, 1916]。加美町三谷 (5 exs., 24-V-1975)。加美町鳥羽 (30 exs., 8-V-1976)。大河内町川上 (1 ex., 7-V-1977)。佐用町大撫山 (2 exs., 2-V-1978)。波賀町原 (1 ex., 11-V-1979)。波賀町音水 (7 exs., 13-V-1973)。氷上郡神楽村 (青垣町) [山本, 1953, 1958]。和田山町牧田岡 [上田, 1996]。日高町三川山 [高橋, 1976]。竹野町坊岡, 日高町赤崎 [上田, 1996]。関宮町氷ノ山 (1 ex., 5-V-1958)。浜坂町清富 [磯野, 1985]。

Subfamily Cryptocephalinae ツツハムシ亜科

Genus *Adiscus* Gistl40. *Adiscus lewisii* (Baly, 1873) タマツツハムシ

長崎を原産地として、Baly (1873) が *Dioryctus* 属で記載した種である (Trans. Ent. Soc. London, p.87)。Roubal (1929) が Kobe 産で *Dioryctus ogloblini* として記載した種 (Bull. Soc. Ent. Italiana, 61(5-6), p.97) は、本種のシノニムである。さらに、Pic (1922) が日本産で *Dioryctus testaceipes* として記載した種 (Mel. Exot. Ent., 35, p.14) も、本種のシノニムである。

成虫は、クリ、クヌギ、コナラなどの葉を線状にか

じる。卵は糞で包まれ、幼虫は糞ケースに入って成長し、越冬することが知られている。

♂は頭・前胸背板が黄赤色、♀は黒い。

兵庫県下には広く分布し、個体数も多い。

産地：洲本市先山 [久松, 1974]。猪名川町内馬場 [仲田, 1978, 1982]。猪名川町能勢妙見山 (2 ♀, 30-VII-1982)。川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]。Kobe [Roubal, 1929]。神戸市鈴蘭台大山公園 (3 ♂ 3 ♀, 23-VII-1982, Hachitani leg), 須磨区須磨 (1 ♂, 9-VII-1982, Hachitani leg), 須磨区多井畑 (1 ex., 19-VI-1990, etc.), 兵庫区烏原 [Chûjô, 1957] (4 ♂ 4 ♀, 6-VII-1941, etc.), 西区木津 (1 ♀, 27-VIII-1984), 西区伊川谷 (1 ex., 6-VII-1988, etc.), 北区逢山峡 (1 ♀, 1-VII-1986, etc.), 北区八田町屏風 (1 ex., 22-VII-1993), 北区藍那 (3 exs., 28-VI-1993)。三木市細川中 (1 ♀, 11-VII-1985, etc.), 三木市口吉川町 (2 ♂ 4 ♀, 14-VII-1986, etc.), 三木市口吉川町笹原 (1 ♀, 26-IX-1986)。小野市山田町 (4 ♂ 5 ♀, 8-VII-1987, etc.)。東条町森 (5 ♂ 1 ♀, 4-VII-1984), 社町三草 (1 ♂, 12-V-1987, etc.)。波賀町音水 (1 ♂, 20-VII-1959)。山南町 (1 ex., 5-VII-1990, etc.)。関宮町氷ノ山 (2 ♂ 3 ♀, 27-VII-1957), 大屋町杉ヶ沢 [磯野, 1985]。温泉町扇ノ山 [辻・岸田, 1972; 高橋, 1975]。浜坂町味原, 観音山 [磯野, 1985]。

Genus *Coenobius* Suffrian41. *Coenobius piceipes* Gressitt, 1942

クロアシヒメツツハムシ

中国南部産で記載された種である (Lingnan Sci. J., 20(2-4), p.336, fig.4)。

一般に黒褐色。触角は黒褐色、基部数節は赤褐色、肢は赤褐色、前胸背板には顕著な横溝を欠き、基部に平行な点刻列を除き顕著な点刻を欠く。体長は、クロヒメツツハムシとほぼ同じ。食草などは不明。

分布は日本 (本州、四国、九州、沖ノ島、対馬) と中国南部。

兵庫県からは1例のみしか記録が見られない。

産地：浜坂町味原 [磯野, 1985]

42. *Coenobius piceus* Baly, 1874 クロヒメツツハムシ

全体黒色。触角は黒褐色、基部4・5節は赤褐色、肢は大部分が黒褐色、前胸背板には全面に顕著な点刻を装い、その表面には顕著な横溝を欠く。体長1.6-1.9 mmの小型種。食草などはよくわかっていない。分布は広い。

兵庫県下には全般に分布しているようだが、特に神

戸市内ではわりと多く見られる。

産地：神戸市兵庫区烏原（1 ex., 31-VII-1966, etc.）, 北区山田町谷上（2 exs., 4-VI-1986）, 西区伊川谷（3 exs., 21-IX-1988, etc.）, 須磨区多井畑（1 ex., 26-VII-1990, etc.）, 北区藍那（2 exs., 12-X-1993）. 三木市細川中（1 ex., 11-VII-1985）, 三木市口吉川町（2 exs., 4-IX-1986）. 吉川町（1 ex., 13-IX-1985）. 小野市山田町（1 ex., 2-VII-1987）. 東条町森（1 ex., 21-VII-1988, etc.）. 龍野市神岡町（1 ex., 21-VIII-1988, etc.）. 柏原町 [山本, 1953, 1958].

Genus *Cryptocephalus* Geoffroy

43. *Cryptocephalus aeneoblitus* Takizawa, 1975

ルリツツハムシ

滝沢春雄博士（1975）は、ルリツツハムシのグループを検討し、バラルリツツハムシの中に新しい種が混じっていることを見出し、命名したのが本種である（Kontyu, Tokyo 43(3), p.429）。♂の交尾器の形状は、明らかにバラルリツツハムシと異なる。お互いによく似ていて、外観上の区別は困難であるが、尾節板の形状が異なるので慣れれば見分けられる。

生態などは、よくわかっていない。筆者の所有標本を1頭ずつ調べてみて、県下にも広く分布していることがわかった。記載に用いられた標本の中に六甲山産がある旨記録されている。

産地：神戸市六甲山 [Takizawa, 1975], 兵庫区烏原（1 ex., 2-VII-1972）, 北区山の街（3 exs., 10-V-1959, etc.）, 北区丹生山（6 exs., 5-V-1956）, 北区谷上（1 ex., 7-V-1961）, 北区藍那（1 ex., 28-V-1961）, 北区箕谷（1 ex., 9-V-1948）, 北区有馬（1 ex., 14-V-1967）. 柏原町（1 ex., 10-V-1953）. 神崎町笠形山（4 exs., 12-V-1966, etc.）. 相生市三濃山（1 ex., 3-V-1969）. 波賀町音水（1 ex., 23-VII-1959）, 波賀町坂ノ谷（1 ex., 28-VI-1973）. 関宮町氷ノ山（1 ex., 27-VII-1957）.

44. *Cryptocephalus amicus* Baly, 1873

キアシツツハムシ

Baly（1873）により、Lewisのコレクションの中にある、長崎産1頭の標本で新種記載された種である。同時に東シベリアのAngara産の2頭の標本も所有しているとある（Trans. Ent. Soc. London, p.98）。体背面の色彩・斑紋には変異が多い（木元, 1984）。

食草はマルバハギ、コナラなどである。

分布は、日本（本州、四国、九州）である。

兵庫県下の記録は、意外と少ない。

産地：神戸市北区逢山峡（1 ex., 27-VI-1987, etc.）, 北

区八田町屏風（1 ex., 4-VI-1993, etc.）, 北区藍那（2 exs., 21-VI-1993）. 新宮町福原（1 ex., 22-VI-1992）. 温泉町扇ノ山 [高橋, 1975].

45. *Cryptocephalus approximatus* Baly, 1873

バラルリツツハムシ

本種はBaly（1873）により、長崎を原産地に記載された種である（Trans. Ent. Soc. London, p.93）。

体背面は一般に黒青色。紫青色、緑青色で、兵庫県下ではごく普通に見られる種である。

分布は、本州、冠島、四国、九州。

食草は、バラ、コナラ、ハギ、フジなど。

産地：津名郡開鏡（1 ex., 24-V-1942）, 愛宕山 [大野, 1969]. 洲本市先山 [大野, 1969; 堀田, 1978]. 洲本市安乎町 [堀田, 1959]. 三原町成相峠 [大野, 1969]. 猪名川町上阿古谷, 木間生 [仲田, 1978, 1982]. 川西市山原, 笹原 [仲田, 1978, 1982]. 宝塚市北佐曾利（3 exs., 13-V-1983）, 宝塚市武庫川畔（1 ex., 24-IV-1992）, 宝塚市長谷, 鳥ヶ脇, 武庫川畔 [水野, 1993]. 西宮市船坂（3 exs., 28-V-1987）. 神戸市御影 [関, 1933]. 六甲山（1 ex., 23-V-1987, etc.）, 兵庫区烏原（1 ex., 18-VI-1939, etc.）, 垂水区垂水（11 exs., 10-V-1985）, 須磨区多井畑（6 exs., 23-V-1990）, 北区小部（1 ex., 10-V-1942）, 北区山の街（1 ex., 2-V-1954, etc.）, 北区箕谷（1 ex., 6-V-1948, etc.）, 北区山田町丹生山（1 ex., 5-V-1956, etc.）, 北区山田町谷上（2 exs., 25-V-1958）, 北区五社（1 ex., 28-VI-1959）. 北区淡河町芦谷溪谷（1 ex., 11-VI-1982）, 北区八田町屏風（7 exs., 6-V-1993, etc.）, 北区藍那（7 exs., 28-IV-1993, etc.）, 北区逢山峡（1 ex., 27-VI-1937）, 西区木津（9 exs., 11-V-1984, etc.）, 西区伊川谷（9 exs., 13-V-1958）. 三木市口吉川町（2 exs., 30-V-1985, etc.）. 吉川町（1 ex., 16-V-1986）, 吉川町奥山（5 exs., 8-V-1986, etc.）. 東条町（1 ex., 11-V-1984, etc.）, 社町三草（4 exs., 1-VI-1989, etc.）, 加美町三谷（1 ex., 6-VI-1975, etc.）, 加美町鳥羽（2 exs., 1-VI-1975）. 神崎町笠形山（1 ex., 12-VI-1975）, 大河内町川上（1 ex., 21-V-1977, etc.）. 小野市山田町（1 ex., 16-V-1987）, 小野市来住町（1 ex., 26-VI-1991）. 龍野市神岡町（1 ex., 26-V-1968）. 新宮町福原（1 ex., 15-V-1992, etc.）. 相生市三濃山（1 ex., 3-V-1969, etc.）. 波賀町水谷（3 exs., 17-VII-1981）, 波賀町音水 [Kimoto et Hiura, 1964]（2 exs., 11-VI-1972, etc.）, 波賀町坂ノ谷（1 ex., 10-V-1953）, 一宮町福知溪谷（3 exs., 20-VI-1976）. 篠山町雨石山 [林ほか, 1995]. 氷上郡 [山本, 1953, 1958], 柏原町（2 exs.,

10-V-1953). 和田山町牧田岡, 和田山町玉置 [上田, 1996]. 出石町寺坂 [高橋, 1963]. 豊岡市大岡山, 愛宕山 [高橋, 1975]. 日高町奈佐路 (5 exs., 22-V-1986, etc.), 日高町上郷, 竹野町坊岡 [上田, 1996]. 関宮町氷ノ山 (1 ex., 25-VII-1955, etc.) [高橋, 1975; 秋山・日暮, 1995; 上田, 1996]. 温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 高橋, 1975; 上田, 1996], 浜坂町味原, 護国神社, 宇都野神社, 城山, 観音山, 清富 [磯野, 1985], 村岡町鉢北高原 [上田, 1996].

46. *Cryptocephalus confusus* Suffrian, 1854

チビルリツツハムシ

従来, Baly (1873) により変種Bは対馬産, タイプと変種AはChusan産で, どちらもAdamsの採集品で記載された*Cryptocephalus discretus*として扱われた種である (Trans. Ent. Soc. London, p.97).

1983年, 木元新作博士はSuffrian (1854) がDauria産で記載した*Cryptocephalus confusus*のシノニムになるとして, この学名が現在使用されている. 体は一般に黒青色, 個体により前胸背板の前縁は黄褐色, 腹部は一般に黒色, 肢は一般に赤褐色, 後肢腿節は黒色, 前胸背板の点刻は, 強く密に装う. 上翅の点刻は, 規則的な列状をなす.

県下には広く産する種である. 生活史その他について, 詳しい報告は見当たらなかった. 食草はコナラとなっている.

産地: 洲本市鮎屋 [大野, 1969]. 猪名川町民田 [仲田, 1978, 1982]. 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]. 神戸市六甲山 (1 ex., 5-VII-1956), Mt. Maya [Kimoto, 1964], 中央区二十番 (1 ex., 26-VI-1955), 北区山の街 (1 ex., 30-V-1954, etc.), 北区金剛童子山 (2 exs., 24-V-1956), 北区丹生山 (1 ex., 5-V-1956), 北区藍那 (1 ex., 9-VI-1978, etc.), 北区逢山峡 (1 ex., 2-VII-1982), 北区谷上 (1 ex., 1-VI-1986), 兵庫区烏原 (1 ex., 26-VI-1983). 龍野市神岡町 (2 exs., 4-VI-1988, etc.). 篠山町雨石山 [林ほか, 1995]. 生野町 (5 exs., 8-VII-1956). 関宮町氷ノ山 (4 exs., 27-VII-1956, etc.). 浜坂町城山 [磯野, 1985. *C. discretus*].

47. *Cryptocephalus exiguns* Schneider, 1792

モモグロチビツツハムシ

1966年, 木元新作博士により, 北海道・栃木・山梨・長野・鳥取・大阪・青森産で *Cryptocephalus kiyosatonus* Kimotoとして記載された (J. Fac. Agr. Kyushu Univ. 13:1:153) が, 1986年に同博士がヨーロッパから東アジ

アに分布する*Cryptocephalus exiguns* Schneiderのシノニムにした種である (Entom. Rev. Japan 41:2:125).

本種は*C. amicus*ときわめてよく似ており, ♂交尾器は明らかに異なるが, ♀においては形態上で明確に区別するのは大変難しい. ただ, 後腿節はほとんどの場合, 黒色味を帯びていることがあげられている.

兵庫県下では, 氷ノ山から記録されているだけで, 調査の必要のある種といえる.

産地: 関宮町福定～氷ノ山 [木元・日浦, 1971].

48. *Cryptocephalus fortunatus* Baly, 1873

キアシルリツツハムシ

Baly (1873) によって, A. Adamsが持ってきた“Hiogo, Japan, also China”産の標本に基づいて, 命名記載された種である (Trans. Ent. Soc. London, p.94).

背面は金緑色で光沢が強く, 触角・肢・頭が黄褐色の美しい種である. 個体数はそれほど多くはないが, 広く分布しているようである. パラ, イタドリなどを食べる. 卵を糞で包む. 幼虫は, 糞ケースに入って成長する. 2月下旬に蛹化し, 4月初旬に羽化した記録がある (竹中, 1975).

産地: 川西市笹部 [仲田, 1978, 1982]. 宝塚市売布ヶ丘 [水野, 1993]. Hiogo [Baly, 1873]. 神戸市六甲山 (1 ex., 15-VII-1956 etc.), 兵庫区烏原 (3 exs., 2-VI-1957), 北区山の街 (1 ex., 13-VI-1954, etc.), 北区丹生山 (1 ex., 18-V-1958), 北区箕谷 (2 exs., 23-V-1938, etc.), 北区逢山峡 (1 ex., 7-VII-1987), 須磨区多井畑 (1 ex., 19-VI-1990). 三木市大村 (1 ex., 10-V-1987). 社町三草 (1 ex., 20-VI-1987), 東条町森 (1 ex., 22-VI-1984, etc.). 青垣町稲土 [高橋, 1960]. 波賀町音水 (1 ex., 20-VII-1959, etc.), 波賀町赤西 (1 ex., 31-VII-1987, M. Nishida leg.). 関宮町氷ノ山 (1 ex., 21-VII-1958) [高橋, 1975]. 温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 磯野, 1985; 上田, 1996], 浜坂町観音山 [磯野, 1985], 村岡町鉢北高原 [上田, 1996].

49. *Cryptocephalus fulvus* Goeze, 1777

ウスグロスジツツハムシ

Goeze (1777) が, ヨーロッパから記載した種である (Ent. Beytr. 1:321). Gressitt・Kimoto (1961) は, 分布をヨーロッパ, シベリア, 中国北部とした論文 (Pac. Ins. Mon. 1A:128, 129, 151) の中で, 中條 (1940) が朝鮮半島から記載 (Nat. Hist. Soc. Formosa, Trans. 30:385, fig.5) した*C. fuscolimeatus*を本種のシノニムとしている. 中條博士は, この*fulvus*を新潟県 (Kinoto-Seashore) より日本初記録種として発表した

(Rep. Nagaoka Municipal Sci. Mus. Niigata Pref. 5).
これによって、本種が日本の本州に分布していることになった。

その後、木元 (1964) は、和田義人博士が西宮市武庫川畔で採集した 7 exs. (11-VIII-1951) を記録した (Jour. Fac. Agr. Kyushu Univ., '13:1:155).

兵庫県下での分布記録は、大変少ない。もっと調査する必要がある。

産地：揖保川流域 [リバーフロント, 1994]。西宮市武庫川 [Kimoto, 1964]。三木市口吉川町 (1 ex., 14-VII-1986)。

50. *Cryptocephalus japonus* Baly, 1873

ヤツボシツツハムシ

Baly (1873) により、横浜産と産地のはっきりしない標本、他に Moor から入手した標本、Chusan (A. Adams より) の標本によって新種記載された (Trans. Ent. Soc. London, p.92. Chusan 産は変種としている)。

黄褐色に黒紋がある顕著な種である。成虫は 4 月頃から出現するが、県下では個体数がそれほど多くないようである。

クリ、クヌギ、カシワ、コナラ、イタドリの葉を食べて、糞で卵を包んで地上に産み落とす。野外の幼虫は、糞ケースに入り、主にイタドリの枯れ葉などを食べて成長している。

産地：宝塚市武田尾 [木元・日浦, 1971]、宝塚市境野 [森, 1991; 水野, 1993]。神戸市御影 [関, 1993]、六甲山 (1 ex., 10-VII-1938)、北区有馬 (1 ex., 4-V-1967)。柏原町、神楽村 (青垣町) [山本, 1953, 1958]。関宮町氷ノ山 (1 ex., 24-VII-1955)。村岡町鉢北高原 [上田, 1996]。

51. *Cryptocephalus limbatipennis* Jacoby, 1885

キスジツツハムシ

Jacoby (1885) が、“Schimonosuwa (Suwa Lake)” 産 1 頭で記載した種である (Proc. Zool. Soc. London, p. 199)。東 (1940) が、*C. bilineatus* Linnaeus var. *moriwaki* として岩湧山産で記載した変種 (Konchu Kenkyu 3:2: 29, f.1) は、本種のことである。

兵庫県産の本種については、筆者 (1982) が詳しく報告している。県下では比較的少ない種のようなのである。
産地：猪名川町杉生新田 [仲田, 1979, 1982]。波賀町音水 (1 ex., 21-V-1972)。柏原町 [山本, 1953, 1958; Kimoto, 1964]、関宮町氷ノ山 (1 ex., 25-VII-1950)。浜坂町 [高橋, 1975]。

52. *Cryptocephalus nigrafasciatus* Jacoby, 1885

タテスジキツツハムシ

“Nowata, Matsuida, Fukin, road to Oyama, Wada toge” のそれぞれを原産地として新種記載された種である (Proc. Zool. Soc. London, p.200)。

兵庫県下での記録は少ない。調査が不十分だと思われる。

食草は、ハシバミ、ヤマハギ、ヤナギの類が知られている。

産地：猪名川町杉生新田 [仲田, 1979, 1982]。神戸市六甲山 (4 exs., 10-VII-1955)、北区逢山峡 (1 ex., 1-VII-1986, etc.)。新宮町福原 (2 exs., 7-VII-1992)。柏原町 [山本, 1953, 1958]。日高町金山 [高橋, 1975]。関宮町氷ノ山 (1 ex., 2-VIII-1955, etc.) [木元・日浦, 1971]。浜坂町味原、清富 [磯野, 1985]、村岡町鉢北高原 [上田, 1996]。

53. *Cryptocephalus nobilis* Kraatz, 1879

ヨツモンクロツツハムシ

Kraatz (1879) によってシベリアから記載された種である (Dtsch. Ent. Ztschr., 23:2:192)。

日本からは Jacoby (1885) が、G. Lewis が “Kiga, Suyama and Subashiri” から得たものを図示したのが初記録になる (Proc. Zool. Soc. London, p.203)。大変はっきりした斑紋を有しているので (黒色で触角基部は黄褐色、上翅の 4 紋は黄色)、きわめて区別しやすい。食草としては、コナラやウワミズザクラなどが知られている。ハンノキの葉を食べても成長するといわれている。卵は糞ケースに入って成長し、幼虫で越冬し、翌春に羽化する。兵庫県下の記録は意外と少ない。

産地：猪名川町杉生新田 [仲田, 1979, 1982]。神戸市北区谷上 (1 ex., 3-V-1957)、北区有馬 (1 ex., 14-V-1967)、北区八田町屏風 (2 exs., 12-V-1993)、西区太山寺 (1 ex., 6-V-1957)。篠山町雨石山 [林ほか, 1995]。日高町三川山 [高橋, 1976]。

54. *Cryptocephalus parvulus* Müller, 1776

セスジツツハムシ

Motschulsky (1866) により、日本から *Cryptocephalus obliquostriatus* Motschulsky と記載された種である (Bull. Soc. Imp. Natur Moscou, 39:1:176)。Baly (1873) が、長崎から記載した *C. permolestus*、同時に記載した *C. amatus* (日本産, Trans. ent. Soc. London, p.95)、*C. inurbanus* の名を与えた Harold の報文 (1874, Coleop.

Heft. 12:152) の種はすべて、本種のシノニムになる。
また、*C. consalans* Baly, 1874 (Trans. ent. Soc. London, p.217), Jacoby (1885) が記録した *C. fuleratus* (Proc. Zool. Soc. London, p.203), Clavareau (1913) の *C. parvulus* も共に本種と同一種である。

ハンノキ、シデ、ポプラ、ハギなどを食べ、飼育ではイタドリ、ハギの枯れ葉を食べて生活したとある。幼虫は、糞ケースに入って生活する。

産地：三原町成相峠 [大野, 1969]。猪名川町槻並 (1 ex., 4-V-1979)。川西市芋生 [仲田, 1982]。宝塚市武庫川町 (3 exs., 24-IV-1983) [水野, 1993]。神戸市保久良山 (1 ex., 1-V-1975), 兵庫区烏原 (1 ex., 16-V-1971, etc.), 垂水区垂水 (11 exs., 10-V-1985), 北区山の街 (1 ex., 30-V-1954), 北区金剛童子山 (1 ex., 24-VI-1956), 北区八田町屏風 (1 ex., 6-V-1993, etc.), 北区藍那 (1 ex., 18-V-1984, etc.), 社町三草 (12 exs., 15-V-1987), 小野市来住町 (1 ex., 9-V-1991, etc.), 加美町白山 (3 exs., 27-V-1973), 大河内町川上 (1 ex., 4-VI-1977), 龍野市神岡町 (11 exs., 26-V-1988, etc.), 波賀町坂ノ谷 (1 ex., 22-VI-1979)。

55. *Cryptocephalus perelegans* Baly, 1873

キボシツツハムシ

長崎産で Baly (1873) によって記載された (Trans. ent. Soc. London, p.88)。中條 (1935) は、奄美大島、石垣島、西表島のものを var. *insulamus* と記載 (Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, 25, p.721), その後、亜種に扱った (1954)。与那国島にも亜種 subsp. *yonaginensis* Kimoto (Kontyu, Tokyo 42-3:281, 1974) を産する。南西諸島に分布している本種は、斑紋の変化が多く、木元新作博士は図入りで詳しく報告している (1974, 1979)。

食草として、クスノキ、ナラ類、カエデ、モクダチバナ、イタドリが知られている。竹中英雄 (1975) は、イタドリ、クリの枯れ葉、新葉をとわず食べて成長したと述べている。

県下での分布記録は、神戸市と家島が知られている。神戸市内ではごく普通に見られるので、恐らく県下に広く分布していると考えられる。

本種については、筆者 (1982, 1987) が詳しく報告したことがある。

産地：家島町家島 [上田, 1981]。神戸市六甲山 [柴内・中畔, 1950], 兵庫区烏原 (1 ex., 3-VIII-1966, etc.)。

56. *Cryptocephalus scitulus* Baly, 1873

カシワツツハムシ

“Hiogo (on oak)” 産で、Baly (1873) が記載した種である (Trans. ent. Soc. London, p.98)。かなりはつきりした色彩をしており、同定に困ることはない。食草は、コナラ、カシワが知られている。日本特産種のようなである。

兵庫県下には広く分布している。

本種については、筆者 (1982) がかつて報告したことがある。

産地：南淡町諭鶴羽山 [久松, 1974]。川西市大和 [仲田, 1978, 1982]。Hiogo [Baly, 1873]。神戸市六甲山 (1 ex., 10-VII-1955), 中央区布引 (1 ex., 17-V-1959), 兵庫区烏原 (1 ex., 27-VII-1974, etc.), 北区鈴蘭台大山公園 (1 ex., 16-VII-1974, etc.), 北区逢山峡 (1 ex., 28-VII-1987), 北区八田町屏風 (1 ex., 22-VII-1993), 西区伊川谷 (2 exs., 6-VII-1978), 三木市口吉川町 (1 ex., 14-VII-1986), 小野市来住町 (1 ex., 26-VI-1991), 龍野市神岡町 (1 ex., 21-VII-1988), 柏原町, 神楽村 (青垣町) [山本, 1953, 1958]。但馬 (データ不詳) [高橋, 1975]。波賀町水谷 (6 exs., 17-VII-1981), 波賀町音水 (1 ex., 15-VII-1973), 関宮町氷ノ山 (1 ex., 24-VII-1956), 大屋町杉ヶ沢 [磯野, 1985]。浜坂町味原, 宇都野神社, 城山, 観音山 [磯野, 1985], 温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 磯野, 1985; 上田, 1996]。

57. *Cryptocephalus signaticeps* Baly, 1873

クロボシツツハムシ

本種は “Nagasaki, China” 産で Baly (1873) によって記載された種である (Trans. ent. Soc. London, p.91)。よく目につく普通種で、県下にも広く分布する。

食草として、クヌギ、クリ、ハンノキなどが知られている。

産地：津名郡開鏡 (5 exs., 24-V-1942), 愛宕山 [大野, 1969], 津名町大町 [堀田, 1978]。南淡町諭鶴羽山 [大野, 1969; 堀田, 1978], 南淡町大日ダム [堀田, 1978], 三原町成相峠 [大野, 1969]。洲本市先山 [大野, 1969; 堀田, 1978], 洲本市鮎屋 [大野, 1969]。猪名川町木間生 [仲田, 1978, 1982]。川西市笹部, 横地 [仲田, 1978, 1982]。宝塚市宝山寺 [木元・日浦, 1971], 宝塚市武庫川畔 (1 ex., 24-IV-1983), 宝塚市玉瀬, 鳥ヶ脇 [水野, 1993]。西宮市香櫨園 (3 exs., 1-V-1941)。神戸市摩耶山 [後藤, 1955], 神戸市保久良山 (2 exs., 1-V-1975), 兵庫区烏原 (2 exs., 18-VI-1939, etc.), 須磨区多井畑 (1 ex., 23-V-1990), 北区山の街 (2 exs., 29-IV-1957, etc.), 北区箕谷 (3 exs., 18-V-1948, etc.), 北区丹生山 (4 exs., 5-V-1956), 北区谷上 (2 exs., 3-V-1959), 北区小

部 (5 exs., 10-V-1942), 北区藍那 (2 exs., 28-IV-1993, etc.), 西区木津 (7 exs., 11-V-1984), 西区伊川谷 (2 exs., 19-V-1988). 吉川町 (2 exs., 16-V-1996), 吉川町奥山 (5 exs., 8-V-1986, etc.). 小野市来住町 (2 exs., 9-V-1991, etc.). 東条町 (6 exs., 11-V-1984), 社町三草 (1 ex., 7-V-1987, etc.). 加美町白山 (1 ex., 3-V-1973), 加美町三谷 (1 ex., 24-V-1975), 加美町鳥羽 (1 ex., 12-VI-1975). 神崎町笠形山 (1 ex., 12-VI-1975), 大河内町川上 (3 exs., 7-V-1977, etc.). 家島町家島 [上田, 1981]. 龍野町神岡町 (3 exs., 26-V-1988). 新宮町福原 (4 exs., 15-V-1992). 相生市三濃山 (2 exs., 3-V-1969, etc.). 波賀町水谷 (1 ex., 17-VII-1981), 波賀町音水 (1 ex., 20-VI-1959, etc.) [木元・日浦, 1964]. 波賀町坂ノ谷 (2 exs., 5-VI-1973), 一宮町福知溪谷 (2 exs., 20-VII-1976). 篠山町雨石山 [林ほか, 1995]. 氷上郡 [山本, 1953, 1958]. 和田山町牧田岡 [上田, 1996]. 出石町寺坂 [高橋, 1965]. 日高町奈佐路 (1 ex., 22-V-1986), 日高町神鍋山, 上郷, 三川山 [上田, 1996]. 関宮町氷ノ山 [高橋, 1959, 1975; 上田, 1996]. 浜坂町味原, 宇都野神社, 城山 [磯野, 1985], 温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 高橋, 1971; 上田, 1996], 村岡町鉢北高原 [上田, 1996]

58. *Cryptocephalus tetradecaspilotus* Baly, 1873

ジュウシホシツツハムシ

本種はBaly (1873) により, “Nagasaki” 産で記載された種である (Trans. ent. Soc. London, p.89). かなりはっきりした斑紋を有するので, 同定は困難でない。県下の本種については, 筆者 (1982, 1987) も解説している。

食草は, マルバハギが知られている。

県下の分布は広いようであるが, 一度に多くの採集は難しいようである。ただ, 川西市内では多産する報告がある (仲田, 1979)。

産地: 洲本市安乎町 [堀田, 1959]. 川西市一の鳥居寒天干場 [木元・日浦, 1971], 川西市東睦野寒天干場 [仲田, 1979]. 宝塚市西谷境野 [小田中, 1994]. Kobe [木元, 1964], 神戸市兵庫区鳥原 (1 ex., 25-VII-1958), 北区大池 (1 ex., 3-VIII-1940). 三木市口吉川町 (1 ex., 14-VII-1986). 吉川町 (1 ex., 13-IX-1985). 小野市来住町 (3 exs., 4-IX-1991). 東条町 (1 ex., 20-VII-1984). 大河内町川上 (1 ex., 23-VI-1977). 揖保川流域 [リバーフロント, 1994]. 生野町段ヶ峰 [木元・日浦, 1964]. 柏原町 [山本, 1953, 1958]. 出石町床尾山 [高橋, 1963]. 関宮町氷ノ山 (2 exs., 25-VII-1955, etc.), 関宮町鉢伏山 [高

橋, 1975], 大屋町杉ヶ沢 [磯野, 1985].

Genus *Pachybrachys* Redtnbacner ハギツツハムシ属
59. *Pachybrachys eruditus* (Baly, 1873)

ハギツツハムシ

Baly (1873) により, “Nagasaki” を原産地として記載された (Trans. ent. Soc. London, p.98).

上翅は黄褐色, 黒条がある。体腹面は黒色, 肢は黄褐色, 触角は細い。体背面の色彩・斑紋に変異がある。全体ほぼ黒色の個体や, 黄褐色のものがある。食草はハギ・ヤナギの類。

兵庫県下では広く分布しているように思われる。特に神戸市内では, ハギで多く見られる。

産地: 川西市妙見山 [仲田, 1972, 1978, 1982]. 神戸市六甲山 (1 ex., 10-VII-1955, etc.), 北区逢山峡 (1 ex., 2-VII-1955, etc.), 北区鈴蘭台大山公園 (1 ex., 23-VII-1982), 須磨区須磨 (2 exs., 9-VIII-1982), 西区伊川谷町前開 (8 exs., 6-VII-1988). 氷上郡神楽村 (青垣町) [山本, 1953, 1958]. 生野町段ヶ峰 [木元・日浦, 1964]. 関宮町大久保～鉢伏高原 [木元・日浦, 1971], 関宮町鉢伏山 [高橋, 1975]. 温泉町扇ノ山 [辻・岸田, 1972], 村岡町祖岡, 鉢北高原 [上田, 1996].

Subfamily Chlamisinae コブハムシ亜科

Genus *Chlamisus* Rafinesque

60. *Chlamisus interjectus* (Baly, 1873)

ミズキコブハムシ

Baly (1873) により, “Nagasaki” 産で記載された (Trans. ent. Soc. London, p.84).

ミズキを食草として日本全国に分布している。兵庫県下の記録はほとんどなく, 調査不十分と考えられる。産地: 浜坂町城山 [磯野, 1985].

61. *Chlamisus japonicus* (Jacoby, 1885)

ハバビロコブハムシ

Jacoby (1885) により, “Kiga, Fukushima” 産で記載された (Proc. Zool. Soc. London, p.198, pl.11, fig.5). 分布は日本全土 (ただし, 四国の分布は知られていない)。体型はやや幅広い。食草はカシ。兵庫県下の記録は少ない。調査不十分のようである。

産地: 関宮町氷ノ山 [高橋, 1975]. 浜坂町宇都野神社 [磯野, 1985].

62. *Chlamisus laticollis* (Chôjô, 1942)

ツツジコブハムシ

中條 (1942) により, “Mt. Hiko in Fukuoka Pref., Tsushima” 産で記載された (Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, 32:82, fig.1).

一般に黄褐色。体背面は、多少とも淡色の斑紋を有する。

分布は本州、九州、対馬。食草は、ツツジが知られている。

県下の記録は大変少なく、調査の必要がある。

産地：神戸市西区太山寺 (1 ex., 6-V-1957)。篠山町篠山 [岩田, 1978]。

63. *Chlamisus lewisi* (Baly, 1873)

ツバキコブハムシ

Baly (1873) により, “Nagasaki” 産で記載された (Trans. ent. Soc. London, p.83)。

前胸背板、上翅は少なくとも部分的に赤褐色～黄褐色。体型は縦長、前胸背板にはその前方部に三角形に位置する3個のすず色の斑紋を装う。

食草はツバキ。分布は本州、四国、九州、対馬、五島、平戸島、台湾。

兵庫県下では本種の記録も少ない。調査不十分の種と考えられる。

産地：猪名川町木間生 [仲田, 1978, 1982]。篠山町雨石山 [林ほか, 1995]。浜坂町観音山 [高橋, 1975]。浜坂町宇都野神社、観音山 [磯野, 1985]。

64. *Chlamisus spilotus* (Baly, 1873) ムシクソハムシ

Baly (1873) により, “Japan” 産で記載された (Trans. ent. Soc. London, p.85)。

一般に黄褐色～赤褐色。体背面は多少とも淡色の斑紋を有する。

分布は北海道を除く日本全土。海外では朝鮮半島、中国東部に分布する。

兵庫県下には分布も広く、極めて普通に見られるハムシの一種である。

食草は、コナラなどが知られている。

産地：南淡町諭鶴羽山 [大野, 1969]。南淡町福良 [酒井, 1973]。洲本市先山 [大野, 1969]。洲本市三熊山 [堀田, 1978]。猪名川町木間生 [仲田, 1978, 1982]。宝塚市下佐曾利 (1 ex., 13-V-1983)。宝塚市玉瀬 [水野, 1983]。西宮市船坂 (1 ex., 5-VI-1987, etc.)。神戸市六甲山 (1 ex., 8-V-1955, etc.)。兵庫区烏原 (1 ex., 2-V-1954, etc.)。須磨区妙法寺 (1 ex., 19-IV-1979)。垂水区垂水 (2 exs., 10-V-1985)。北区藍那 (1 ex., 5-V-1969, etc.)。北区箕谷 (1 ex., 16-V-1948, etc.)。北

区丹生山 (1 ex., 5-V-1956, etc.)。北区石井ダム (1 ex., 22-X-1991)。北区鈴蘭台大山公園 (2 exs., 7-V-1982, etc.)。北区谷上 (1 ex., 1-VI-1986)。北区淡河町芦谷溪谷 (1 ex., 5-VI-1982)。北区八田町屏風 (1 ex., 6-V-1993, etc.)。西区広野 (1 ex., 16-IV-1956)。西区伊川谷 (2 exs., 7-VI-1988, etc.)。西区太山寺 (1 ex., 6-V-1957)。西区木津 (1 ex., 11-V-1984)。小野市来住町 (1 ex., 9-V-1991)。三木市口吉川 (1 ex., 7-V-1986, etc.)。吉川町 (2 exs., 6-VI-1985)。東条町森 (6 exs., 11-V-1984, etc.)。社町三草 (1 ex., 6-VII-1989)。龍野市神岡町 (1 ex., 8-IX-1988, etc.)。篠山町雨石山 [林ほか, 1995]。氷上郡 [山本, 1953, 1958]。山南町 (1 ex., 5-VII-1990)。加美町白山 (2 exs., 3-V-1973)。出石町寺坂 [高橋, 1963]。生野町 (1 ex., 8-VII-1956)。浜坂町味原、城山 [磯野, 1985]。

Subfamily Lamprosominae ツヤハムシ亜科

Genus *Oomorphoides* Monros

65. *Oomorphoides cupreatus* (Baly, 1873)

ドウガネツヤハムシ

Baly (1873) により, “Nagasaki” 産で記載された種である (Trans. ent. Soc. London, p.82)。

一般に銅黒色。体背面は銅黒色、個体によって青藍色。上翅は小楯板、会合線沿いに幅広く明瞭な点刻を欠く。

分布は広く、日本全国ならびに朝鮮半島。

兵庫県下にも分布は広く、極めて普通に見られるハムシである。

食草はタラノキ。

産地：津名郡愛宕山 [大野, 1969]。洲本市先山 [大野, 1969; 久松, 1974; 堀田, 1978]。洲本市鮎屋 [大野, 1969]。南淡町諭鶴羽山 [大野, 1969; 久松, 1974; 堀田, 1978]。三原町成相峠 [大野, 1969]。猪名川町木間生、上阿古谷 [仲田, 1978, 1982]。川西市一の鳥居、笹部 [仲田, 1978, 1982]。宝塚市武田尾 (4 exs., 25-VII-1954)。宝塚市玉瀬 [水野, 1993]。西宮市船坂 (1 ex., 21-V-1987, etc.)。西宮市盤滝 (1 ex., 29-V-1987)。神戸市六甲山 (1 ex., 22-V-1987, etc.)。中央区布引 (1 ex., 17-V-1959)。兵庫区烏原 (1 ex., 8-V-1981)。須磨区妙法寺 (2 exs., 23-V-1982)。須磨区多井畑 (1 ex., 19-VI-1990, etc.)。垂水区垂水学園都市 (6 exs., 10-V-1955)。北区藍那 (4 exs., 28-IV-1993, etc.)。北区山の街 (1 ex., 16-V-1954, etc.)。北区箕谷 (7 exs., 30-V-1943)。北区丹生山 (1 ex., 15-V-1955)。北区逢山峡 (1 ex., 2-VIII-1985)。北区八田町屏風 (1 ex., 6-V-1993, etc.)。北区淡川町芦

谷溪谷 (1 ex., 11-VI-1982), 西区木津 (1 ex., 30-V-1984), 西区伊川谷前開 (3 exs., 13-V-1988, etc.). 三木市細川町 (1 ex., 30-V-1985), 三木市口吉川町 (1 ex., 7-V-1986, etc.). 吉川町奥山 (1 ex., 20-V-1986). 三田市永沢寺 (1 ex., 3-VI-1978), 三田市 (1 ex., 28-V-1983). 夢前町雪彦山 (1 ex., 14-VII-1957). 社町三草 (1 ex., 22-V-1989). 神崎町笠形山 (1 ex., 12-VI-1966), 大河内町川上 (2 exs., 7-V-1977, etc.). 加美町白山 (8 exs., 3-V-1973), 加美町鳥羽 (2 exs., 5-VII-1975, etc.). 朝来町須留ヶ峰 (2 exs., 9-VI-1975). 新宮町福原 (1 ex., 15-V-1992, etc.). 相生市三濃山 (3 exs., 3-V-1969, etc.). 一宮町福知溪谷 (5 exs., 20-VI-1976), 波賀町水谷 (2 exs., 17-VII-1981), 波賀町音水 (1 ex., 20-VII-1959, etc.), 波賀町坂ノ谷 (2 exs., 9-VI-1973). 篠山町雨石山 [林ほか, 1995]. 柏原町 [山本, 1953, 1958], 山南町 (3 exs., 5-VII-1990, etc.). 出石町 [高橋, 1963]. 日高町三川山 [高橋, 1975]. 関宮町氷ノ山 (1 ex., 24-VI-1955, etc.) [高橋, 1975], 八鹿町妙見山 [上田, 1996]. 温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 高橋, 1975; 磯野, 1985]. 浜坂町宇都野神社, 城山, 村岡町兎和野 [磯野, 1985].

66. *Oomorphoides nigrocoeruleus* (Baly, 1873)

アオグロツヤハムシ

Baly (1873) により, "Japan : Nagasaki" 産で記載された種 (Trans. ent. Soc. London, p.83).

黒藍色. 前胸背板の点刻間室は微細な点刻を装い, 頭部のさめ肌状印刻は弱い. 上翅は小楯板, 会合線沿いに明瞭な点刻を装う.

分布は日本全土. 兵庫県下にも広く分布している.

食草はタラノキ.

産地: 南淡町諭鶴羽山, 三原町成相峠 [大野, 1969]. 洲本市鮎屋 [大野, 1969]. 神戸市六甲山 (1 ex., 8-V-1955), 兵庫区鳥原 (2 exs., 2-VI-1957), 北区山の街 (1 ex., 11-IV-1954, etc.), 北区箕谷 (1 ex., 30-V-1943, etc.). 北区丹生山 (1 ex., 15-V-1955). 社町三草 (1 ex., 15-V-1987). 相生市三濃山 (1 ex., 18-V-1974). 波賀町音水 (1 ex., 10-V-1970, etc.). 篠山町雨石山 [林ほか, 1995]. 柏原町 (1 ex., 10-V-1953). 出石町 [高橋, 1963]. 日高町三川山 [高橋, 1975]. 日高町上郷 [上田, 1996]. 関宮町氷ノ山 [高橋, 1959], 大屋町杉ヶ沢 [磯野, 1985]. 温泉町扇ノ山 [辻, 1963; 辻・岸田, 1972; 上田, 1976]. 浜坂町観音山 [磯野, 1985].

Genus *Oomorphus* Curtis

67. *Oomorphus japanus* Jacoby, 1885 ヒメツヤハムシ
Jacoby (1885) により, "Japan : Oyama, Ichiuchi" 産で記載された種 (Proc. Zool. Soc. London, p.197). 複眼の内線は完全で, ツヤハムシ属 *Oomorphoides* と区別される (ツヤハムシ属の複眼の内線はくぼむ).

上翅の点刻は列状をなし, 銅黒色. 個体によって青藍色. 食草はツワブキ. 分布は北海道を除く日本全国.

兵庫県下の分布は全般.

産地: 神戸市中央区布引 (2 exs., 17-V-1956), 北区藍那 (3 exs., 28-IV-1993, etc.), 加美町白山 (1 ex., 3-V-1973), 加美町鳥羽 (1 ex., 5-VII-1975). 大河内町砥ノ峰830m [木元・日浦, 1971]. 相生市三濃山 (1 ex., 3-V-1969). 波賀町音水 (1 ex., 20-VII-1959, etc.), 波賀町坂ノ谷 (1 ex., 9-VI-1973). 青垣町粟鹿峯 [高橋, 1960]. 関宮町氷ノ山 (1 ex., 27-VII-1956). 浜坂町味原, 宇都野神社, 観音山 [磯野, 1985].

〔付記〕本報文 (1) の冒頭で, 筆者が初めてキベリハムシを神戸市の鳥原で採集したのは昭和17年 (1942) 7月24日であるとしたが, これはどうも筆者の思い違いで, 実際は昭和11年 (1936) 7月24日のことで (昆虫界 Vol. 8, No. 72, p.40, 1940), ここに訂正させて頂きたい.

IRATSUMEバックナンバー価格表 1998年

No. 1 絶版

No. 2 ~ No. 7 但馬むしの会会員: 各1100円

一般: 各1400円

No. 8/9 ~ No. 21 会員: 各1300円

一般: 各1600円

※ 8/9, 13/14, 15/16は合併号

いずれも送料300円を加算のこと

ご注文は但馬むしの会事務局まで